

1 - 5 留萌沖の地質構造について Submarine geological map off Rumoi

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Japan Coast Guard

調査は平成 8 年 7 月 - 8 月及び平成 9 年 8 月 - 9 月で、測線方向は南北、測線間隔は経度 4 分とシエアガン (GI-150) を用いた。調査区域には広い大陸棚の沖合に大陸境界地が拡がり、海丘、堆、海嶺、海盆が分布し、西縁には忍路海山を含む奥尻海嶺北端部が位置している。

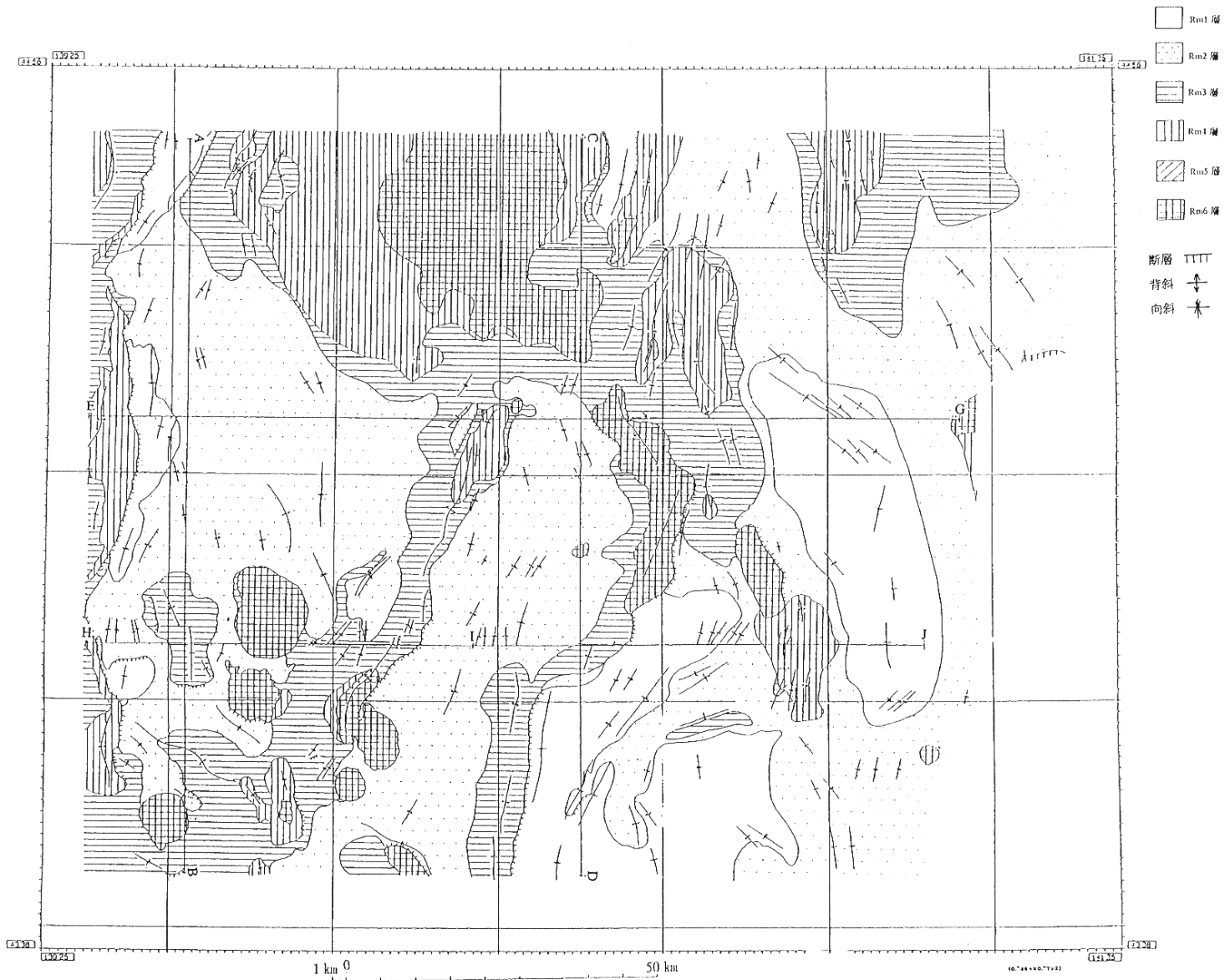
調査区域の地層は音響的層相の相違や不整合を基準として行い、最上位の Rm1 層から最下位の Rm6 層の 6 層に区分した。

奥尻海嶺北端部は東落ち断層により武蔵海盆と接している。武蔵海盆では北北西 - 南南東から北北東 - 南南西方向の褶曲構造で、Rm1 層堆積域では Rm2 層以下を、それ以外では Rm3 層以下を変形させている。武蔵海盆の北方には Rm3 層以下を切る東落ちと西落ちの 2 本の断層が北北東 - 南南西方向に走り、地溝状の地形を形成している。武蔵海盆南側では褶曲構造が北西 - 南東方向を示し、Rm2 層、Rm3 層を変形させている。

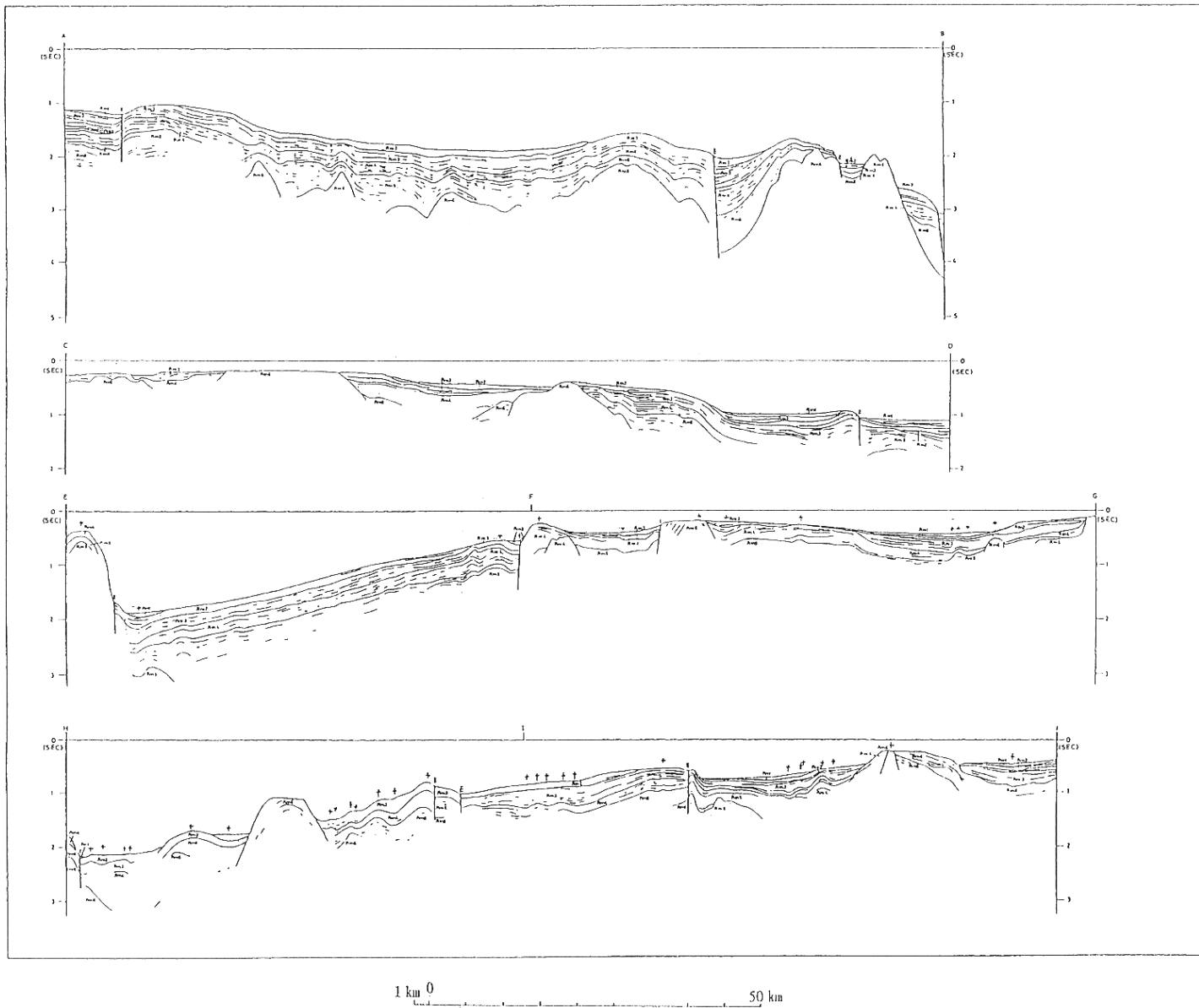
武蔵堆は北部では Rm6 層が広く露頭しているが、天狗ノ鼻から天売堆にかけての武蔵堆東部とその付近では Rm2 層から Rm4 層が露頭し、ここでは Rm3 層以下を変形させる褶曲構造が南北から北北東 - 南南西方向を示している。利尻舟状海盆と西側を断層で接している天狗ノ鼻は北北東 - 南南西方向の Rm4 層の背斜構造から成っている。利尻舟状海盆は Rm4 層以下を切る北北東 - 南南西方向の東西の断層により地溝と成り、中央部には Rm2 層以下を変形させる向斜構造が断層と同方向に伸びている。西側の断層位置では Rm1 層と Rm2 層が浸食を受け、谷状の地形を形成している。南武蔵堆と天狗ノあごでは、北西 - 南東方向の Rm6 層の背斜構造から成り、東側は南北から北北東 - 南南西の東落ち断層である。

武蔵堆南西方に位置する第 36 共同堆は、北東 - 南西方向の Rm4 層の背斜構造から成り、南西に Rm3 層の背斜構造と積丹海丘群の一つの Rm6 層の背斜構造から成る積丹堆がある。積丹堆から北東方の背斜構造の東側は断層が北東に伸びている。第 36 共同堆や積丹海丘群と武蔵堆や神威海嶺に囲まれる区域では、北東 - 南西方向が卓越する褶曲構造で Rm2 層、Rm3 層以下を変形させている。

神威海嶺は南北方向の Rm3 層の背斜構造から成り、東側は断層により石狩海盆と接している。石狩海盆では Rm2 層以下を変形させる褶曲構造が北東 - 南西方向を示すが、南端では北北西 - 南南東方向になる。天売舟状海盆の北部では褶曲構造が北西 - 南東方向を示し、中・南部では北東 - 南西及び南北方向で、Rm2 層以下を変形させている。小樽堆は北部 Rm6 層から成り、東側は断層で天売舟状海盆と接している。南部は Rm4 層の背斜構造で、大きく傾斜した Rm4 層が接頭され、中央付近には Rm6 層が露頭する。大陸棚では褶曲構造が北北西 - 南南東方向の示し、Rm2 層から Rm4 層以下を変形させている。

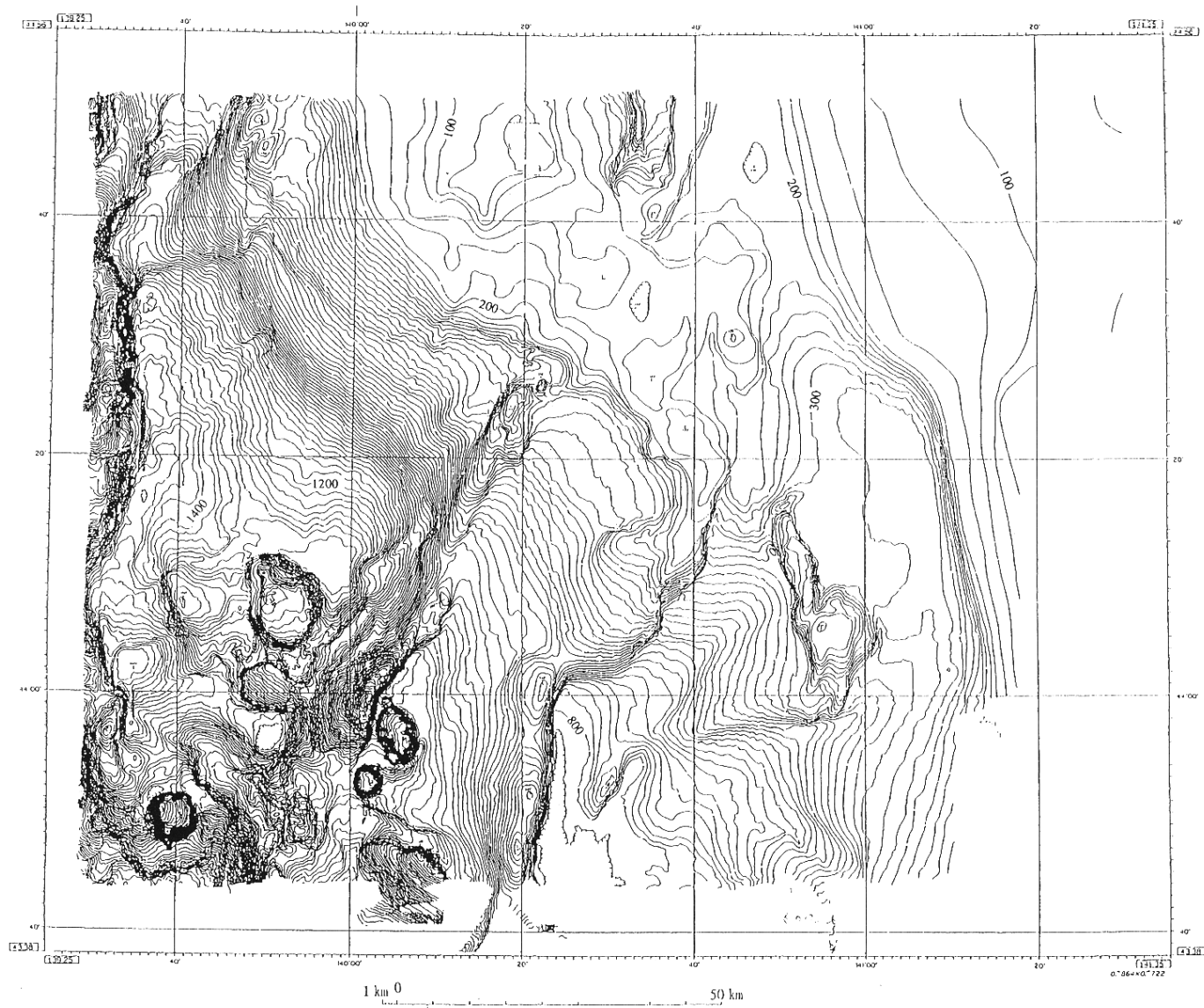


第 1 图 留萌冲海底地質構造图
Fig 1 Geological Map off Rumoi.

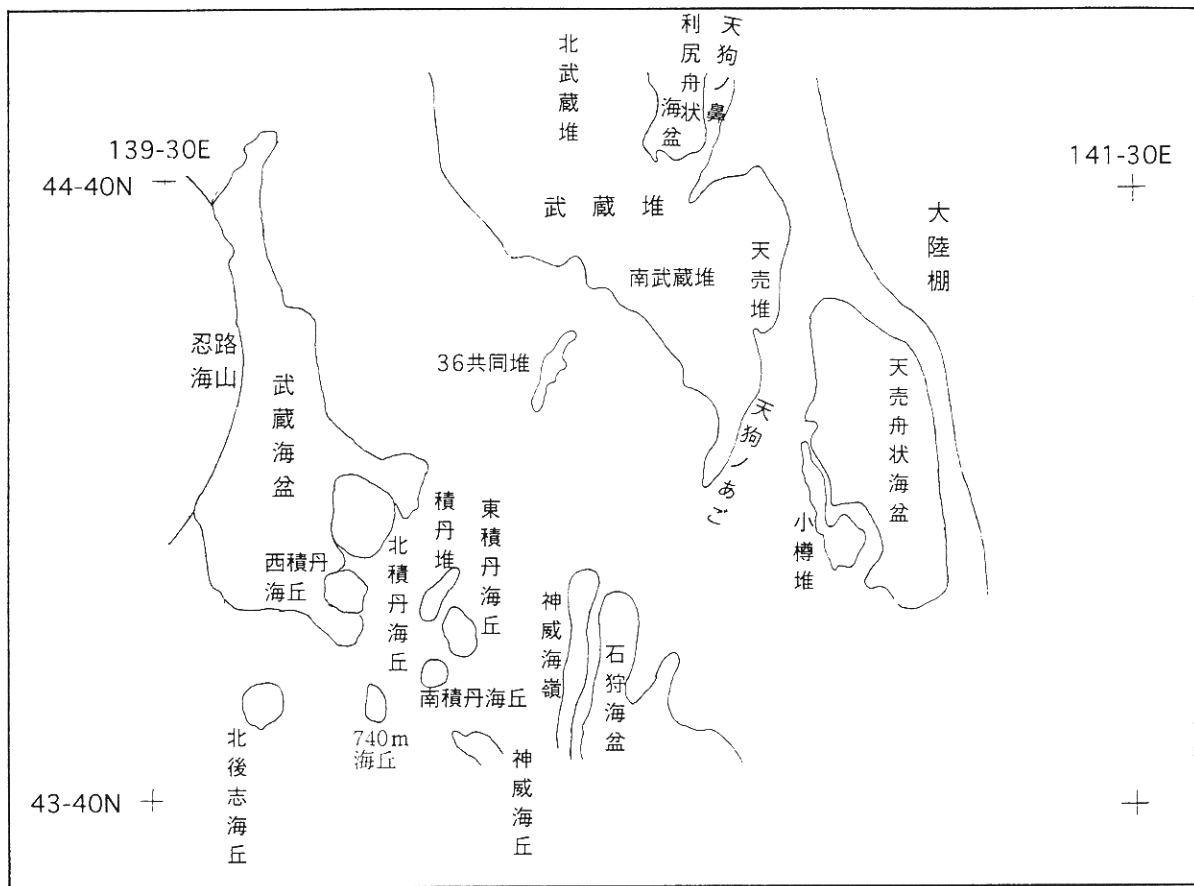


第 2 图 留萌冲海底地质断面图
Fig.2 Geological Section.

等深線間隔 20m



第3図 留萌沖海底地形図
Fig.3 Bathymetric Map off Rumoi.



第4図 留萌沖の海底地名
 Fig.4 Names of submarine topography off Rumoi.